

神戸交通労働組合第79回定期大会(2025年7月15日 於:ふたば学舎)

再建80年、次代へつなぐ労働組合の力



執行部挨拶をする奥行委員長

2025年7月10日の10時30分より、新長田にあるふたば学舎において、神戸交通労働組合第79回定期大会を開催し、報告並びに全議案を全会一致で確認・承認しました。



発行元
神戸交通労働組合
〒653-0004
神戸市長田区四番町 2-1-2
神戸交通労働組合会館
TEL 078-575-6712
FAX 078-575-3848
編集発行人
佐藤 秀樹
毎月 15 日発行
定価 1 部 10 円
組合員の購読料は組合費に含む

大会来賓

- | | | |
|-------|---------|-------------------------------------|
| ○城南 | 雅一 | 神戸市交通事業管理者 |
| ○山下 | 忠之 | 自治労兵庫県本部執行委員長 |
| ○佐田 | 悟 | 都市公共交通評議会副議長
(京都交通労働組合執行委員長) |
| | 見城 史浩 | 東京交通労働組合委員長 |
| | 梅谷 英昭 | 横浜交通労働組合執行委員長 |
| | 大原 拓士 | 名古屋交通労働組合執行委員長 |
| | 吉田 彰 | 大阪交通労働組合執行委員長 |
| | 當野 博照 | 伊丹交通労働組合執行委員長 |
| ○北川 | 学 | 神戸市労働組合連合会執行委員長
(神戸市職員労働組合執行委員長) |
| ○河合 | 和俊 | 兵庫県交通運輸産業労働組合
協議会議長 |
| ○長谷川 | 孝之 | 連合地域協議会議長 |
| ○黒田 | 一美 | 兵庫県会議員 |
| ○川内 | きよなお | 神戸市会議員 |
| ○よこはた | 和幸 | 神戸市会議員 |
| | 伊藤 めぐみ | 神戸市会議員 |
| | 諫山 大輔 | 神戸市会議員 |
| | やの こうじ | 神戸市会議員 |
| | 木戸 さだかず | 神戸市会議員 |
| ○かじ | 幸夫 | 神戸市会議員
(神戸交通労組組織内議員) |
| | 高見 福二 | 神戸市交通局退職者協議会会長 |

神戸交通労働組合第79回定期大会は、西垣支部長の司会進行で開会し、冒頭、執行部を代表し、奥執行委員長が挨拶を行いました。

その後、里岡資格審査委員長(高速乗務支部)から、代議員の出席状況は、招請51人中、出席49人、委任2人、欠席0人であると報告があり、大会の成立が宣言されました。

続いて、平野大会書記(本局支部)から祝電披露が行われ、その後、里岡議事運営委員長(高速乗務支部)から議事日程の発表があり、議事に入りました。

報告の部では、「2024年度活動経過報告」が藤野書記長から、「2024年度会計決算報告」が平尾会計から、「決算監査報告」が林田会計監査委員(高速乗務支部)から報告され、承認されました。

次に、議長団に藤野代議員(石屋川支部)と田中代議員(高速技術支部)を選出し、来賓挨拶へと移りました。来賓挨拶では、城南交通事業管理者(神戸市交通局)、山下委員長(自治労兵庫県本部)、佐田議長(都市公共交通評議会)、北川委員長(神戸市労働組合連合会)、黒田議員(兵

次に、議案の部では、第1号議案「2025年度運動方針(案)」が坂倉副委員長から、第2号議案「2025年度会計予算

(案)」が平尾会計から、第3号議案「規約の改正について」が坂倉副委員長から提案され、すべての議案について承認されました。

次に、第4号議案「非常事態の認定を中央委員会に委嘱する件について」、第5号議案「顧問弁護士の委嘱に関する件について」、第6号議案「会計監査人の委嘱に関する件について」、第7号議案「顧問委嘱に関する件について」がそれぞれ坂倉副委員長から一括提案され、各議案とも満場一致で承認されました。

その後、職場新聞表彰、大会スローガン採択、大会宣言採択、組合功労者表彰が行われ、最後に五百旗頭執行委員長の発声で「団結ガンバロー」を三唱し、第79回定期大会は終了しました。

交通労働組合第79回定期



来賓挨拶をする組織内議員の「かじ幸夫」神戸市会議員

奥執行委員長挨拶 要旨

代議員の皆さま、おはようございます。
本年3月より神戸交通労働組合の執行委員長を務めております奥でございます。執行委員会を代表して、本日の第79回定期大会に際し、ご挨拶を申し上げます。

まずは、明け勤務や公休日、さらにはご家族との大切な時間を調整し、ご参加いただいた代議員の皆さまに、心より感謝申し上げます。また、城南交通事業管理者をはじめ、自治労兵庫県本部、都市交評、神戸市労連、連合神戸地域協議会、交運労協をはじめとする多くの来賓の皆さまにご臨席賜り、神戸交通労働組合を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、2025年は私たちにとって節目の年です。戦後80年を迎えるとともに、私たち神戸交通労働組合も、終戦からわずかに月後の1945年10月16日に再建され、今年で80周年を迎えることとなります。ただし、定期大会の回数としては79回目となりますが、これは「1995年の阪神・淡路大震災の影響により、大会を開催できなかったことによるものです。」

1995年の震災から今年で30年。当時の被害や混乱は、今日の若い世代には想像しがたいかもしれません。私自身、当時は西神中央駅で駅掌として勤務しておりました。震災翌日には、市バス路線の復旧運行が開始され、地下鉄も西神中央から板宿間で運行が再開されました。市民の足として、命を守るために、被災直後から組合と現場が一丸となり動き出しました。

組合員の中には、自身や家族が被災していた方も少なくありません。それでも、全体として救助活動を優先すべく、組合執行部の要請に応じ、現場が迅速に対応できたことは、今思い返しても誇るべきことです。あの混乱の中、早期のバス・地下鉄運行により、医療機関や避難所へのアクセスが確保され、多くの命を救うことに繋がりました。

このような経験を経て、公共交通に携わる私たちは、単なる移動手段を提供するのではなく、「人の命を預かる」という強い責任のもとで仕事をしているのだと痛感しています。

また、震災の年には地下鉄サリン事件も発生し、公共交通の安全に対する脅威が一層高まりました。さらに、2005年には福知山線の脱線事故が発生し、多くの犠牲者を出したことも記憶に新しいところでは、これらの出来事はいずれも「命に関わる」事象であり、私たちが常に「安全」を最優先に業務を遂行すべきことを改めて教えてくれます。

近年、地震や台風などの自然災害が頻発しています。南海トラフ地震の発生確率が30年以内に80%とされるなか、神戸交通の職場でも非常時対応の体制整備がますます求められています。いかなる事態にも市民の命を守るという使命を果たすため、私たちは日頃から準備と連携を怠ってはなりません。

そのためには、「人」が必要です。しかし、人口減少が加速する今、交通産業における人材確保は大きな課題となっています。2024年の出生数は70万人を割り込み、2045年には人口が1

億人を下回ると予測されています。労働人口も約1,000万人減少し、6,000万人ほどになるとの見通しもあります。そんな中で、交通運輸業界は、重労働・低賃金というイメージから人材確保が困難になっており、公共交通の持続性が脅かされています。

したがって、安全を守る体制の維持には、人材確保に加えて、予算措置や制度整備が必要です。そして、それを実現するためには、政治の力が不可欠です。これまで市議会・県議会をはじめとする議員の皆さまと連携し、予算確保や制度要望を行ってまいりましたが、さらに一歩進めて、国会においても私たちの声を反映させていく必要があります。

現在行われている参議院議員選挙において、私たちは、兵庫選挙区では「泉房穂」氏を、比例代表では自治労推薦の「岸まきこ」氏を推薦しています。特に「岸まきこ」氏については、フルネームで「岸まきこ」と記載しなければ、同姓候補との混同により票が分散してしまいます。周知徹底と投票行動の促進に、皆さまのご協力を改めてお願い申し上げます。

本日の定期大会において、今後の運動方針がしっかりと議論され、現場に根ざした課題解決と、安全・安心な職場環境の実現に向けて、一層の団結が図られることを心より期待いたします。そして執行部としても、現場の声を第一に受け止め、皆さまと共に歩みながら、運動の先頭に立ってまいります。

今後とも、引き続きのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

《2025年度 組合功労者表彰》

五百旗頭	英裕（高速乗務支部）
植田	豊（高速 乗務支部）
成田	尚樹（高速技術支部）
小川	浩平（石屋川支部）
長谷川	貞信（中央自動車支部）
西脇	博司（垂水自動車支部）
松浦	功（本局支部）

《2024年度 職場新聞表彰》

優秀賞

高速駅務支部 「station」

努力賞

高速乗務支部 「サブウェイ」

